



2015年8月1日  
第27号

# 岡山大学工学部 同窓会報

編集・発行 / 岡山大学工学部同窓会事務局  
〒700-8530 岡山市北区津島中3-1-1 岡山大学新技術研究センター内  
TEL・FAX (086) 255-8311  
メールアドレス ofst@cc.okayama-u.ac.jp  
ホームページ(URL) <http://www.eng-okayama-u.ac.jp/alumni/index.html>  
印刷所 / 小野高速印刷(株)  
〒670-0933 姫路市平野町62 ☎ 079(281)8837

## TOPICS

挨拶 (工学部長、代表幹事、退職者)	1～
学科近況、各支部報告	6～
ホームカミングデイに向けて	10～
職場紹介	11～
新任・昇任・退職等教員紹介	13～
寄附者一覧	16
会計報告	17
同窓会事務局より	18

## 岡山大学および工学部の現状 (2015)

工学部長 富田 栄二



大学全体としては、一昨年、「研究大学強化促進事業」(合計22大学・組織)に選定され、昨年、「スーパーグローバル大学創成支援」(合計37大学)に選定されました。岡山大学が日本全体の中で、グローバル

に展開する研究大学として、今後の発展が期待できます。また、全学の動きとしては、平成28年度から、岡山大学の学生が海外へ留学しやすくなるために、クォーター制が導入されます。また、同じく平成28年度から、現在90分の授業が15回で2単位(総時間数135時間)となっているのが、60分の授業が30回で2単位(総時間数180時間)となります。すなわち、総授業時間は約1.33倍となります。試験は、この時間とは別途実施されます。これは、単位の考え方を本来の姿に戻したものであり、授業時間をしっかりと確保して実効ある学びを実現しようとするものです。

工学部における最近の活動状況および平成27年度の目標等をご紹介します。カリキュラムは平成28年度からのクォーター制および60分授業の導入に合わせて変更するので、平成27年度は大きな変更はありません。

社会貢献に関しては、例年通り、学生フォーミュラやロボコン活動、出前講義、各先生方の審議会や学会での委員会活動、創造工学センター部門による小中学生向けの各種行事など、いろいろとありますが、これらは岡山大学工学部を広く社会に認知してもらい、その存在感を示すという意

味で、まさに広報活動につながっています。幅広い広報活動が受験生の確保にも結びつきます。平成27年7月下旬に高島屋の8階フロアにて他の理学系学部と共同で、小学生向けのイベント「岡山大学サイエンス実感フェア2015」を行います。

スーパーグローバル大学に選定されたことによって、海外との交流はますます盛んになっていくでしょう。中国の長春でH27年から中国赴日留学生の現地教育に岡山大学が参画します。また、ミャンマーとは、六大学と共同してヤンゴン工科大学やマンダレー工科大学から、先方の教員をドクターコースへ受け入れ始めております。米国のウェイン州立大学のがん生物学研究所、SSIM(Smart Sensors and Integrated Microsystems)からは2015年1～2月に2名の教員に来学していただき、ドクターコースの授業を担当していただきました。エラスムス・スミントスのプログラムでは、EUの大学との交流が進んでおります。

また、工学部を卒業した学生は年々増えていきます。工学部同窓会と工学部がお互いの距離をもっと短くするようにしたいものです。すなわち、工学部同窓会が、岡山大学工学部の教育、研究、社会貢献にも、もっと深く、積極的に関与することができるような仕組みと一緒に構築していきたいと考えております。その取り組みの一つとして、経済学部との合同授業である「実践コミュニケーション論」において、平成27年度から工学部同窓会から2名の方に非常勤講師として参画していただく予定です。これを機会に、同窓会と工学部の結びつきが強くなることを願っております。

## 工学部同窓会からのご挨拶

工学部同窓会代表幹事 酒井 貴志 (1970年卒)



今春入学された新入生の皆様も大学での新しい生活サイクルになじまれた頃と思います。学生時代にはあまり意識なく過ごしていますが、卒業して、また、はるかな時を経て振り返る時

に、そのころの濃密な時間や場面を懐かしく、またはっきりと思い出すことができるものです。また、社会に出てからは、大学での学びだけでなく、先生や友人との間で築いた良い信頼関係にいろいろな場面で助けられることが分かってきます。それだけ、学生時代は人生の重要な基盤を作る時であると思います。どうか、学生の皆様が、岡山大学工学部で、一生の財産となる「もの」を築いていただきたいと願っています。

さて、工学部同窓会は、教員、学生、卒業生が正会員です。その活動としては、まず、①会員の名簿整備を5年毎に行っており、②年1回の会報の発行による学内外の情報交換、③10月の大学のホームカミングデイでの同窓会総会、報告会、懇親会、④学部行事の支援等が主な取り組みとなっています。さらに、⑤各学科同窓会で、学生の就職支援、卒業生による企業紹介などの活動が行われています。そして、これらの活動を進めるために、⑥活動費をお願いすること—主として入学時の会費と会員からの寄付金—が大きな活動のポイントでもあります。これらは、工学部の現職の若手教員からなる学内幹事とそれ以外の学外幹事によって進められていますが、多忙な仕事の中で大変なご苦勞に感謝しています。

特に、⑥の活動費のお願いの成否は、同窓会活動の基盤に係ることです。会費は、岡山大学 Alumni (全学同窓会) 会費10,000円と工学部同窓会会費10,000円の合計20,000円を入学時に願

いしています。また、卒業生、教員の皆様からは多額のご寄付をお寄せいただいております(会計決算参照)、皆様のご支援に厚くお礼申し上げます。卒業生の増加に伴い必要経費は増える一方で、財政的には厳しい状況にあります。皆様からの財政的なご支援を今後ともよろしくお願い申し上げます。

工学部同窓会の支部活動も活発になって来ています。これまで、関東支部がありましたが、昨年、岡山支部、関西支部が設立されました。各支部の活動については、支部活動報告欄をご覧ください。支部活動が活発に行われ、さらに、新しい支部が生まれることを支援していきたいと思っています。また、これからは、岡山大学 Alumni (全学同窓会) およびその支部との連携を図り、全学的な視点での人的な交流を促進していきたいと思っています。

同窓生の年齢構成も幅広くなり、多彩な経歴や能力をもった方々が、全国、全世界で活躍されています。同窓会がそのような方々の交流の機会を作ると共に、いろいろな体験を若い方々に伝え、支援する役割を果たすものでありたいと思っています。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご活躍を心からお祈りしています。



# 退職にあたって

## 岡山大学の研究と教育の思い出

機械システム系学科 塚本 眞也

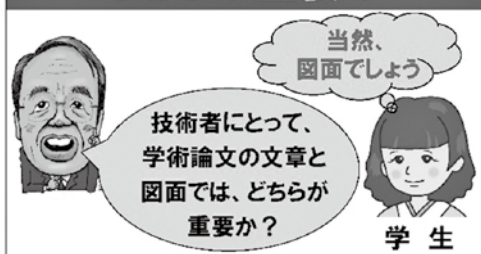


「技術者にとって、学術論文の文章と図面では、どちらが重要か？」

機械系の学生が最初に受講する専門科目の開講時に、私が毎年、質問していた言葉である。

当然、正解は「図面」だ。「学術論文では、インパクトを与える図面で、まず読者を引きつけ、そのあとに文章で内容を的確に理解させることが不可欠だ」と強調してきた。これが、退職にあたって、この拙文に図面を掲載している理由である。

### 論文の文章と図面ではどちらが重要？

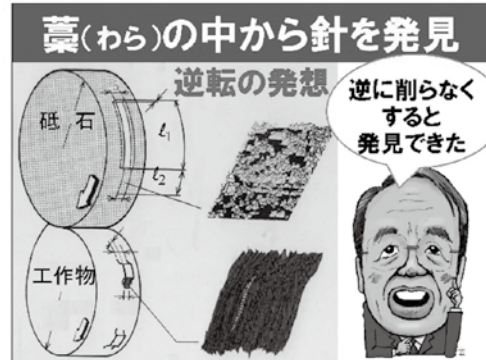


【研究】私は、岡山大学工学部機械工学科の卒業論として内面研削の研究を開始して以来、京都大学大学院ならびに岡山大学助手として赴任して本年3月の退職まで、一時、住友電気工業（株）で切削工具の研究を2年余り経験した以外は、一貫して研削加工の研究に携わってきた。

これは、振り返ってみれば、まことに充実かつ幸福な研究人生であったと言うべきだろう。研究の中で最も印象に残るのを1つだけ挙げると言われるならば、次の研究しかない。

学生時代から、砥石の砥粒が工作物表面の研削溝をどのように削り出しているかが解明できないだろうかと思考を繰り返していたのだが、この分野の大御所の意見としては、「数百万個の砥粒が高速で工作物と干渉するのだから、それを発見するのは、藁（わら）の中から針を見つけるような

もので、不可能だ」というのが常識であった。



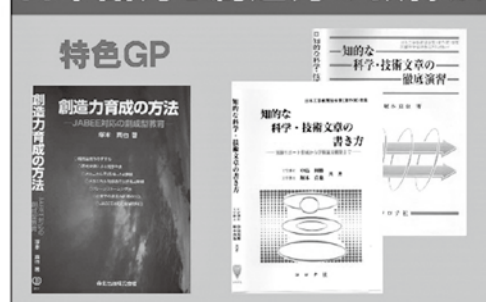
ところが、逆転の発想を適用し、削らない箇所を砥石表面に作り出すと、逆に工作物の研削溝を削り出している砥粒が発見できたのである。興味ある読者は、次の論文を熟読いただきたい。

◆砥石面トポグラフィから考察した研削面プロフィールの創成機構に関する研究、精密工学会誌 59 (3)、491-496、1993

【教育】岡山大学の私の教育における最大のトピックスが、特色GPであるのは明白だろう。工学部で実践していた日本語力と創造力の教育法が特色GP、すなわち文部科学省の特色ある大学教育支援プログラムに採択されたのである。

文部科学省の平成16年～19年の4年間の受託経費6,100万円を当時の7学科の意欲的な教育テーマに注入することとなった。これが、工学部の教育改革の強力なドライビングホースになったことは間違いない。

### 日本語力と創造力の教育法



それ以上に、「本教育法を日本国内に啓発普及させよ！」との文部科学省の命令で、北海道から沖縄までの大学・高専・企業の108か所を手弁当の出前講義で全国行脚し、途中、インフルエンザ

のため旅先のホテルで客死してしまうと覚悟させられたことも、今となれば懐かしい思い出である。

本年4月から、中国職業能力開発大学の校長職を開始してみると、この校長の管理運営も業務としては非常に面白いのだが、岡山大学時代は自分の好きな研究教育だけに専念できる真の意味での「自由人」であったとはじめて気づかされた。教員の皆様は、この自由人としての貴重な時間と空間を最大限にご活用いただきたい。

最後に、岡山大学に対し深甚な感謝を捧げるとともに、工学部教職員の皆様のますますのご発展とご活躍を祈念させていただく。

## 10年間の大学生生活を振り返って

機械システム系学科 瀬沼 武秀

とても楽しく充実した10年間の大学生生活を送らせていただいた感謝の気持ちを込めて、この退職のあいさつ記事を執筆させていただきます。私は自分の人生設計で最後は教育に携わりたいと思っていました。その理由は今の私があるのは素晴らしい恩師の先生方との出会いがあったからこそで、その恩返しなしで私の人生を閉じることはできないと思っていたからです。親から受けた御恩は子供に、恩師から得た御恩は学生さんたちに返したいと思っていました。

私は恵まれたことに企業で多くの経験を積むことができ、どのような人材が企業で輝けるかを見してきました。それを参考に学生の皆さんが目指している自己育成の手伝いをしたいと思いました。学生さんたちは大学までの教育では、教えてもらったことをしっかり覚えることで成功体験を積んできました。しかし、社会に出て輝くにはそれだけでは不十分で、本当に望まれている人材は自ら考え、適切に行動できる主体性を持った人材であることは周知のとおりです。大学という教育機関のミッションは教養、専門知識の伝承とともに、学生さんに「教えてもらう」から「学ぶ」へのパラダイムの変換を促すことだと思います。学ぶ力が身につけば将来どのような課題に直面しても怖いものはなく、常に輝いて仕事ができます。

この学ぶ力を身につけることと主体性を持つことは表裏一体だと思います。私の研究室の学生さんは「耳タコです」といわれるほど、しつこく言っていたのですが、主体性を持つということはI、V、C、Rをしっかり持つことです。IはIdeal

志です。私はガイダンスの授業で工学部の学生全員に孫正義さんの半生を描いた「志高く」という本を読んでもらいました。この本は孫さんが持ち続けた「世の中のためになりたい」という志のもと、時代ごとに明確なビジョン（V）を持ち、それを実現するためにしっかりしたコンセプト（C）を構築し、それをいつまでに実現するというロードマップ（R）を持つことの重要性をととても分かりやすく示しています。V、C、Rを持つことは自分の人生設計だけでなく日ごろの仕事の仕方でもとても重要で、V、C、Rを意識して行動するか否かで、その人の輝き度は明らかに違ってきます。学生さんの歳がちょうど私の子供と同じぐらいでしたので、自分の子供にエールを送るようにV、C、Rの重要性を熱弁したために、うるさく思われた感は拭えませんが、先日催してくださった卒業生による退職慰労会で「先生に会えてよかった」と言ってくれた卒業生がいたことは本当にうれしく思いました。主体性を持つことの重要性は私が若い人々に送りたい一番のメッセージでしたので、それを教員という特権を活かして授業を通じ3000人近い若い人々に伝えることができたことはとても幸せでした。

ここで、工学部の現役の方々、特に若い先生方に一つエールを送りたいと思います。SGUに認定され、今後色々な取り組みがなされていくと思いますが、何かを目指すには、何かを捨てる覚悟が必要です。これはなかなか難しいことですが、これをしないといつか身動きのできない状態になります。大学の先生方は人がいいので、頼まれごとでいいことは断らない傾向がありますが、企業では費用対効果という尺度でよいことも断ることがよくあります。時間はすべての人に平等に与えられたものです。それをどのように生かすかで自分たちの人生が決まります。しっかりしたV.C.R.をもってSGUを担う人材として大いに輝いて活躍されることをお祈りします。

最後に今後について一言。私は自己育成について学生さんたちに常にいつか来たことがあります。それは君たちが意識しなければならぬ評価は、他人の評価ではなく、未来の君が今の君に「本当に頑張ってくれてありがとう。今の私があるのは君のおかげです」と感謝してもらえるかどうかという自己評価の重要性です。今回の退職慰労会でも、その話が出て、「君たちもこの10年が人生を方向付けるうえで非常に重要であり、私に

とっても健康寿命を謳歌できる最後の10年なので、どちらが10年後の自分に、より感謝されるか競争しようではないかという話になりました。退職して2か月になりますが、いまのところとても充実した楽しい日々を送っています。私の目指すところは退職を迎える後進の方々が、一日も早く退職生活に入りたいと思ってもらえるような羨ましい存在になることです。私が10年間生活したドイツでは大半の人が定年退職になり年金生活者になることを楽しみに働いていました。それは年金

生活者が本当に幸せそうな日々を送っていたからです。現役の方々には申し訳ありませんが、日本の将来と年金受給者のために頑張ってください、私たち高齢者は世の中を明るくする存在になるように人生をエンジョイしたいと思います。皆様ますますのご活躍とご健勝をお祈りして挨拶を終わらせて頂きたいと思います。長い間お世話になり本当にありがとうございました。

平成27年5月30日

### 瀬沼武秀教授退職記念会、 兼材料物性同窓会報告

機械システム系学科 竹元 嘉利

瀬沼先生は平成22年4月から機械工学科材料物性学の教授として着任され、この10年間で112名の卒業生を指導されました。このたび平成27年3月末をもちまして定年退職となり、4月25日(土)に岡山市内にて退職記念会、兼同窓会を行いました。参加者は35名で懐かしい方々との昔話

に話が尽きませんでした。各卒業生から近況報告と思い出話をいただき、皆、瀬沼先生が強く指導してきた、ビジョン、コンセプト、ロードマップについての取り組みについての話があり、先生の教えが深く浸透していることが感じられました。また卒業生と在学生の間でも活発な交流が行われ、就職を目前とした在学生にとっても有意義な時間が過ごせました。本会の開催において同窓会からも多大なご協力をいただいたことを深く感謝申し上げます。



工学部1号館



中央図書館

# 学 科 近 況

## 機械システム系学科 システム工学コースの近況

機械システム系学科・学科長  
有菌 育生

卒業生、修了生の皆様、ならびにご退職された教職員の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

ご存じの通りシステム工学科は、1996年4月の設立から2011年4月の大学組織改革にともない、機械システム系学科システム工学コースとして再出発しました。このように、当学科コースはその発足以来、今年度末にちょうど20年の節目を迎えることとなります。この間の皆様のご活躍のおかげをもちまして、当学科コースの社会的な認知度およびニーズも益々高まっています。このような状況に 대응するために、システム工学科発足以来の「人間と機械の調和」の理念のもとに、日々教育と研究に取り組んでいます。この成果として、近年、在学生の研究成果の学外での発表もきわめて活発に行われており、国際会議で研究成果を発表する機会も益々増えてきています。これらの結果、国内外の学会などからも高い評価をいただき、在学生を多く表彰していただいています。このような流れをさらに加速させるため、時代の要請の変遷に応え、また時代の先端を切り拓くべく、機械システム系学科システム工学コースとしましては、最先端の教育と研究に挑戦し続けていく所存です。同窓会の皆様におかれましては、今後ともご期待とご支援をよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、2013年4月以降の当学科コースの人事異動を記し、結びとさせていただきます。

**【転出】** 鈴森康一教授(2014年3月、現在、東京工業大学教授)、高岩昌弘准教授(2015年3月、現在、徳島大学教授)、佐々木大輔助教(2015年3月、現在、香川大学講師)、箕輪弘嗣助教(2015年3月、現在、岡山商科大学准教授)

**【着任】** 平田健太郎教授(2014年4月)、佐藤治夫准教授(2014年5月)、山崎謙治教授(2015年4月)

## 電気通信系学科の最近の話題

電気通信系学科・学科長  
杉山 裕二

前回、電気電子工学コースは2012年度(Vol.24)、通信ネットワークコースは2014年度(Vol.26)に近況報告をしていますので、その後の両コースの状況について述べます。

### 組織と教員

学部は昨年度改組が完成し、現在は学科統合の中身を充実させようと奮闘しています。一方、大学院は、本年度から自然科学研究科に生命医用工学専攻が新設され、塚田啓二教授、紀和利彦准教授、堺健司助教、横平徳美教授、福島行信助教が新専攻に移りました。

次に教員の異動について報告します。電気電子工学コース関係では、2012年10月林靖彦教授(ナノデバイス・材料物性学)着任、2013年2月高橋則雄教授逝去、同年10月平木英治教授(電力変換システム工学)着任、11月七戸希助教が准教授昇任、2014年2月石川篤助教(マルチスケールデバイス設計学)着任、3月笹山瑛由助教が九州大学へ転出、5月金錫範准教授が教授昇任、10月梅谷和弘助教(電力変換システム工学)着任と多くの異動がありました。一方の通信ネットワークコース関係では、2014年11月豊田啓孝准教授が教授昇任し、2015年3月渡邊寛助教が退職しました。

### 教育と研究

2016年度から60分・クォーター制が全学的に導入されることになりました。90分の授業が60分×2回となり、さらに1科目を2ヶ月程度で終えなければならず、カリキュラムの見直しが要求されます。そこでこの機会に、実験科目を統合するなど、両コースの教育内容の一体化を計りました。将来的にはコース再編も視野に入れて検討を進めています。

研究面については、(1)塚田啓二教授の内閣府SIP関連のもの、(2)林靖彦教授のCOIサテライト拠点関連のものを紹介します。

(1) [http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id3992.html](http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id3992.html)

(2) <http://www.okayama-u.ac.jp/user/ancs/>

大学改革の下、岡山大学、そして当学科は、急速に変化しつつあります。機会がありましたらぜひ学科・研究室にお立ち寄りください。最後になりましたが、同窓会の皆様には、様々な面でのご支援やご協力をお願いするとともに、ご健康を祈念し、益々のご活躍を期待いたします。

## 情報系学科の近況

情報系学科・学科長  
高橋 規一

昨年の同窓会会報で情報系学科の近況報告がありましたので、その後の動きについてご報告いたします。

まず、教員の異動についてです。平成26年7月に村上昌己准教授が岡山大学情報統括センターに教授として転出されました。村上教授には引き続き講義や特別研究を通して学科の教育にご協力頂いています。平成26年12月には佐藤将也助教が日本学術振興会特別研究員から着任され、情報セキュリティに関する研究と計算機工学分野の教育を担当されています。平成27年4月には門田暁人教授が奈良先端科学技術大学院大学准教授から着任され、ソフトウェア分析学の研究と関連分野の教育を担当されています。以上の結果、情報系学科の教員は現在、理事1名(兼務)、教授6名、准教授3名、講師3名、助教6名、助手1名の20名となっています。

次に、大学改革や社会の変化に伴う学科の動きについてです。平成27年4月に大学院自然科学研究科に二つの新専攻が設置され、情報系学科の教員の中では、阿部匡伸教授、相田敏明講師、原直助教の大学院における担当が生命医用工学専攻に変わりました。また、平成28年度には60分授業・クォーター制が大学全体で導入される予定であり、学科内でも新カリキュラムの検討が進んでいます。一方、学生の就職活動においては、今年度より日程が大幅に後ろ倒しになりました。幸いにして情報系人材への需要は高い水準を保っており、学生達は落ち着いて活動しているようです。

情報系学科では今後も研究と教育の活性化に向けて努力を続けて参ります。同窓生並びに旧教職員の皆様には引き続きご支援頂ければ幸いです。末筆ながら皆様のご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。

## 化学生命系学科(旧物質応用化学科・旧生物機能工学科)の近況報告

化学生命系学科・学科長  
依馬 正

同窓生並びに旧教職員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。学科を代表し、近況をご報告申し上げます。

前々回の同窓会報(第25号)以降の人事異動は、以下のとおりです。平成26年3月に井口勉准教授(精密有機反応制御学)が定年退職され、同年4月に早川一郎准教授(生物有機化学、←筑波大学)が着任されました。平成27年3月には片桐利真准教授(ヘテロ原子化学、→東京工科大学)が転出され、同年4月に高石和人講師(合成有機化学、←成蹊大学)が着任されました。

平成27年4月から大学院(化学生命工学専攻)が改組されて、応用化学専攻と生命医用工学専攻に分かれました。化学生命系学科は2011年に発足しましたので、一期生がちょうど大学院に上がってきたタイミングでの大学院改組です。全学的な教育改革も進んでおり、平成28年度から「60分・クォーター制」へ移行する予定です。これまでは、1コマ90分を15回受講して2単位でしたが、平成28年度からは1コマ60分を30回受講して2単位になります。従来より1.33倍多く授業を受ける(講義をする)ことになります。さらに、前期も後期も半分で区切って、1年を4分割します。現在、そのための準備が急ピッチで進んでいます。

もともと化学生命系学科は物質応用化学科と生物機能工学科の統合により誕生したわけですが、前者は工業化学科と合成化学科の統合によりできた精密応用化学科の改組により作られ、後者は生物応用工学科と生体機能応用工学科の統合により作られました。今や学生定員140名という大きな学科です。今後も多くの優秀な人材を輩出し続けていきます。同窓生並びに旧教職員の皆様のますますのご活躍を祈念しております。



## 工学部同窓会関東支部 平成26年度活動報告

関東支部 支部長 藤澤 芳朗

同窓生の皆様 お元気でお暮らしのことお慶び申し上げます。

さて、最初のいきさつから話します。第一回目の関東支部同窓会は昭和60年10月開催致しました。当時は大学にも工学部の同窓会はなく、もちろん正式な名簿もありません。私は昭和40年卒業の二期生です。当時工学部は創立当初で大学の先生も若く、学生も一期二期生のみでしたのでお互いに良く遊び良く飲み歩いたものです。当時私は19才、現在は74才全く隔世の感があります。人生は大学の在学中の4年間のみで決まるものではありません。卒業後の人生の方がはるかに長いのです。即、卒業生がしっかりしていない大学は、良い学生が集まらなく、学生のみならず卒業生も肩身の狭い思いをします。一期生に坂東靖夫氏という大変気さくな行動力のある人がいました。この先輩と二人で工学部関東支部の同窓会を作ろうと意気投合しました。最初は、大学に残っている友人から各学科の卒業生で東京にいる元気の良い人を紹介してもらい、会社にTELをかけ食事を共にしながら同窓会の必要性を話し賛同頂だし、少しずつ形を作っていきました。そしてとりあえず工業工学科だけの同窓会を昭和58年東京で開きました。来賓の先生は、坂東氏の恩師である化学工業科の高橋昭男先生です。このときは約20人程集まって頂き盛大（5割出席）な同窓会になりました。次に各学科の主だった人に集ってもらい、その人達を中心となって昭和60年のオリンピックの年に、東京在住の全学科の卒業生に案内状を送り、第一回の同窓会をしました。約80人位（約10%）集まってくれ、想像以上の大盛況でした。来賓の先生は、工学部長の故高橋克明先生と法文学部同窓会東京支部長の故馬越弁護士（岡大法科1期）です。第一回目の支部長はもちろん坂東氏が就任されました。幹事の人達が、お互いに金を出して、各学科の名簿を見ながら一人一人はがきを書いたものです。いずれにしても創生期というのは大変な苦勞がありますが出席者が喜んでくれると之も吹っ飛びます。現在は大学改革と言うことでアラムナイ（全学同窓会）の創成期です。工学部も従来は単独で同窓会をしていたのですが、丁度良い機会でもありますのでスケール大きくアラムナイに協力し在校生並びに同窓生との輪を広げて少しずつでも地歩を高めてゆきたいと思うこの頃です。以上



(写真：平成4年)

## 工学部同窓会関西支部 平成26年度活動報告

昨年10月25日に京田辺市の同志社大学構内に24名の出席者を得て岡山大学工学部同窓会関西支部の設立総会を開催しました。設立総会では、岡山から工学部同窓会酒井代表幹事、加藤副代表幹事にご出席いただき、岡山大学工学部電気工学科の設立にもご尽力いただいた石原名誉教授からもご挨拶をいただきました。

関西支部設立後、平成26年12月4日に高槻市内で忘年昼食会を行い、10名が参加しました。そこで、当分の間は、同窓会の輪を広げるために、親睦を深めることを主目的とすることを確認しました。その後、平成27年2月20日には、京都二条の旧第2無鄰菴にて13名の参加者を得て、和やかな雰囲気同窓会を行いました。

平成27年度の最初の同窓会は、6月6日に宝塚市で開催しました。兵庫県で初めての同窓会で、設立総会よりも多い29名の参加者がありました。

今年度の関西支部総会は、岡山大学法・文・経済学部同窓会大阪支部に合せて、7月7日にJR大阪駅前で開催の予定です。当日は、工学部出身のゲストスピーカーも予定されており、両学部の結びつきがさらに深まればと願っています。同窓会活動により、各期、各学科の卒業生の旧交を温めるとともに、地域の活性化、異業種交流や、自己啓発などへの発展を期待しています。

工学部同窓会関西支部の活動状況は、岡山大学工学部同窓会のHPにも掲載しています。関西支部についての問合せは、次のアドレスをお願いします。

連絡先 難波義久（機械4期）y.namba@gaia.eonet.ne.jp  
村上有司（工化7期）nxkt62448@nike.eonet.ne.jp  
大賀 享（生機10期）ohga@noritz.co.jp  
大森 勝（電気2期）momoritakatsuki0822@gmail.com



設立総会（2014.10.25）

## 工学部同窓会岡山支部 平成26年度活動報告

昨年（平成26年）8月30日に、工学部同窓会岡山支部が設立されました。有志OBが集まり、約1年間の準備期間を経て設立に至ったものです。設立総会にはOBを中心に約45名が参加下さいました。支部の活動目的は、主として、(1) 親睦、(2) 地域、企業、社会への貢献、(3) 工学部の活動支援（グローバル人材育成等の教育支援）としています。会員は、岡山県とその周辺地域の工学部同窓会員と支援して下さる賛助会員としています。特にこれから増してくるであろうOBのパワーとシーズが活かされる場を提供して行きたいと思っています。



その後の活動の様子、また連絡先等は、岡山支部ホームページ (<https://okayama-u.sakura.ne.jp/wp/>; パスワード okadaieing) に記載されていますので、ぜひご覧ください。また、HPから支部会員(メールリスト)に登録していただきますと、月刊の岡山支部メールマガジンやいろいろな情報をタイムリーにお送りいたします。

支部活動としては、原則として毎月第3土曜日に、懇親会(昼食会または夕食会)と例会を開催しています。開催日時、場所は、毎月HPに掲載していますので、ぜひご参加下さい。学科や年齢を越えた友人を作り、懇親を深め、経験や情報を交換し、さらにそこから新しい活動が生まれることを期待しています。

また、地域、企業支援活動を円滑に進めるために、現在、「岡山大学工学部同窓会人材バンク」の登録をお願いしています。HPにあるフォームにて登録ください。現在、地域の企業、事業所等からの相談が来ており、対応を進めています。また、工学部の学生教育の支援として、「実践コミュニケーション論」への講師派遣等を行っています。

また、支部総会、懇親会を来る8月29日(土)午後2時に学内で予定しています。詳細は本号会告をご覧ください、奮ってご参加下さい。

これから皆様が気軽に参加できる支部として活動して行きたいと思っておりますのでご意見、ご賛同よろしくお願い致します。

(支部代表幹事 酒井貴志、S45年 合成化学卒)



設立総会后 (2014.8.30)



懇親会



ホームカミングデーでの支部活動報告 (2014.10.18)

## 工学部電気通信系学科同窓会 平成26年度活動報告

### キャリア形成のための意見交換会を開催

電気通信系学科同窓会の主催で、2014年10月18日(土)、電気通信系学科卒業生とのキャリア形成のための意見交換会を、工学部講義室にて開催しました。目的は、電気通信系学科の学生が将来のキャリア形成を考えるための材料提供です。講師として、卒業生の宇山拓、奥田玲子、富永直、中西健二、増田翔悟、守本弘明、吉村健太郎の各氏が参加し、後輩たちに業務内容や就職活動の体験談を紹介するとともに、社会人としての経験を踏まえたアドバイスしました。学生からもたくさん質問が出され活発な意見交換の場となりました。

意見交換会終了後には、ケータリング形式の昼食会を開催しました。卒業生、学生ともにさらに打ち解けた雰囲気の中で、学生達は会社での業務や社会人としての生活等に関して具体的な質問を積極的にしていました。参加した学生からは、身近に感じられる学科の諸先輩から具体的な話を直接聞くことができたこと好評でした。



### 就活生と卒業生の懇親会を共催

電気通信系学科と学科同窓会の共催で、2015年2月10日(火)、就活生と卒業生の懇親会を開催しました。就職活動を控えた修士1年生と学部3年生を対象とし、学科卒業生が在籍する企業18社より会社説明をして頂きました。参加者数は学生が100名、卒業生が22名と大変な盛況でした。

会場には大学生協の食堂を使用し、ピュッフェ形式の食事をしながら学生が各社のテーブルを訪問する形式を採りました。先輩と後輩という心理的な近さもあり、学生からは、大手企業から名前を知らなかった企業まで幅広い企業について詳しい情報を得られたと、卒業生からは一般の企業説明会より熱心に説明を聞いてもらえたこと好評でした。



## 平成27年度 工学部同窓会岡山支部 総会、懇親会のご案内

### ○岡山支部総会

日時 2015年8月29日(土)14:00~15:45(13:30開場)

場所 工学部5号館1階16番教室

1)これまでの活動報告

2)ゲスト講演会

講演者 大久保浩司氏

元大手商社勤務、岡山大学工学部機械工学科39年度卒(第1期生)

演題: アラブの問題(仮) 中近東とアフリカ北部各国の紹介、イスラム教の話、チュニジアの生活、それにイスラム国のこれからはシリア、イラク、イエメンを眺めて推測する。

### ○懇親会

総会后 16:30~18:30

場所 岡山大学生協食堂ピーチユニオン4階 (086-256-4104)

参加費 3,000円(当日集金)

参加申し込み: 8月21日(金)までに、同窓会事務局まではがきまたはメール(事務局: [ofst@okayama-u.ac.jp](mailto:ofst@okayama-u.ac.jp))にて、氏名、学科、年度卒を連絡ください。

## ホームカミングデイ

### 2015年度 工学部同窓会報告会・懇親会のご案内

岡山大学工学部同窓会では、昨年につき、本年10月17日（土）に「工学部同窓会報告会」と「懇親会」を計画しています。当日は、岡山大学ホームカミングデイのいろいろな行事、工学部研究室開放等も企画されています。懐かしい岡山大学の変貌をぜひご覧ください。詳細は工学部と工学部同窓会ホームページを参照ください。この機会に会員相互の懇親を深め、同窓会への一層のご理解を戴ければ幸いです。皆様の奮ってのご参加をお待ちしています。

#### 工学部同窓会報告会

日 時：2015年10月17日（土）、15：30～16：30（受付開始：15：00）

場 所：岡山大学工学部1号館1番教室（本館1階）

- 1) 工学部同窓会の活動と課題について（工学部同窓会代表幹事、他）  
支部活動（関東、関西、岡山）についてもご報告いたします。
- 2) 工学部の最近の活動について（工学部副学部長）
- 3) 大学院自然科学研究科の現状について（大学院自然科学研究科副研究科長）
- 4) 意見交換

#### 工学部同窓会懇親会（17：00～19：00：受付開始16：30）

場 所：南福祉施設（ピーチユニオン4階）

懇親会費：3,000円（工学部同窓会報告会受付にてお支払いください）

なお、準備の都合上、懇親会参加希望者は10月7日（水）までに同窓会事務局（ofst@okayama-u.ac.jp）まで、学科、卒業年、氏名等をご連絡下さい。また、ご質問等も事務局へご連絡下さい。



2014年度 工学部同窓会報告会(2014.10.18)



懇親会（ピーチユニオン）

#### 化学系同窓会（工化会）、生物同窓会 合同総会開催のご案内

日 時：2015年10月17日（土）、14：00～15：00（受付開始13：30）

場 所：岡山大学工学部1号館第2講義室（本館1階）

議 題：化学生命系学科同窓会（仮称）の設立について

同窓生の皆さま方のご参加をお待ちしております。

## 職 場 紹 介

ヤンマー株式会社  
中央研究所エレクトロニクス開発センター  
組込ソフトウェアグループ

**藤本 祥語**

平成24年3月自然科学研究科 機械システム工学専攻修了



私は2006年に岡山大学工学部システム工学科に入学し、その後自然科学研究科機械システム工学専攻へ進学・修了した後、2012年にヤンマー株式会社（以下、ヤン

マー）へ入社しました。

私が勤務しているヤンマーは、創業が1912年と100年以上の歴史を持つ会社です。1933年には、当時2階建ての建物と同じ程度の高さがあったディーゼルエンジンを、世界で初めて実用レベルまで小型化することに成功しました。現在はそのディーゼルエンジン事業を始め、タンカーなどに使用される大形エンジンやプレジャーボート、農業・建設機械や発電機、空調や投光器といった人々の暮らしを支える様々な商品を提供しております。

私は現在、中央研究所エレクトロニクス開発センター 組込ソフトウェアグループに所属しております。エレクトロニクス開発センターは、弊社製品に搭載される電気制御ユニット（以下、ECU）という製品の「頭脳」とも呼べる部品のハードウェア・ソフトウェアの設計・開発や試験を行っている部門です。部門の特徴として、大学時代に制御工学や電気電子工学、情報工学や通信工学を専攻してきた技術者が多数在籍しております。

また、その下に属する組込ソフトウェアグループは、主にECU制御ソフトウェアの共通部分や各商品固有部分の開発を担当している部署です。新たな制御に関する要素技術の調査や、実装検討も行っております。

私のこれまでの仕事の経歴としては、入社後に約3ヵ月間の文理共通の新入社員導入研修を受けた後、現在の部署にて専門知識の研修を約3ヵ月間受けました。その研修が完了した後、教育担当の先輩社員の下で研修を受けながら実際の業務を行うOJT（On-the-Job Training）の中で、船舶用の大形ガスエンジンの制御開発業務に従事して、仕事のやり方を学んでいきました。そして現在は、日本米の収穫を行うコンバイン量産品に使用される制御ソフトウェアの開発業務に従事しております。

コンバインは、稲の刈取、穂先から米粒を分離する脱穀、米粒をトラックの荷台や米袋へ入れるための排出といった農作業機能だけでなく、進む、止まる、曲がるという自走や、斜面に合わせて傾斜角度を調整するなどの機能があります。私はその中でも、米粒の排出を行うオーガと呼ばれる部分の制御を主に担当しております。このオーガは、見た目は非常にシンプルなのですが、予想以上に関連部品や機能が多いため、何度も実物を確認・操作しながら制御設計を進めていきました。パソコンの前でデータを見るだけでは解らないことが非常に多いので、今後も積極的に実物を見たり操作したりすることで、実際に商品を使用されるお客様が本当に必要とされていることは何なのか、という点を意識しながら仕事に取り組んでいきたいと考えております。

最後に、これから就職をされる方々へのメッセージですが、皆様が本当に実現させたい「もの」や「こと」を考えた上で就職先や業種を選んでいただければと思います。

ヤンマーは従業員の意欲や想いを非常に大事にしてくれる会社で、実際に私も一番興味があった農業機械へ携わることができました。この点から、ヤンマーは皆様の夢を実現させやすい会社だと思います。ご関心をお持ちいただいた方々と、お会いできるのを楽しみにしております。

科研製薬株式会社  
新薬創生センター薬理部

**前田 貴志**

平成15年3月自然科学研究科博士課程

科研製薬株式会社は1948年に財団法人「理化学研究所」を改組した「株式会社科学研究所」として発足し、1952年に「科研化学株式会社」に社名変更、1982年に科研薬化工株式会社と合併し、現在の「科研製薬株式会社」となりました。現在の連結従業員は約1,500名です。医薬品、医薬部外品、医療機器、動物用医薬品、農業薬品、資料添加物の製造販売及び不動産の賃貸など多岐に渡り事業を手掛けております。東京に本社、事業所は札幌、仙台、名古屋、大阪、広島、福岡にあり、研究の拠点である新薬創生センターは京都と静岡に、工場は静岡にあります。

昨今の医薬品業界を取り巻く環境が厳しさを増すなか、科研製薬は関節機能改善剤アルツ、創傷治癒促進剤フィブラストスプレー、癒着防止吸収性バリア材セプラフィルムなど、独創的な医薬品を提供し、整形外科、皮膚科、外科の領域で特色を発揮しています。2014年には外用爪白癬治療剤クレナフィンを発売し、日本初の外用爪白癬治療剤という新たな選択肢を提供したことで、患者・医師の双方から好評をいただいています。

私が勤務している新薬創生センターの薬理部は自社の重点領域の疾患に関して、新たな分子標的の探索や創薬標的としての妥当性を検証し、薬となる可能性を持つ化合物を選抜できる評価系を構築します。構築した評価系を用いて、化合物ライブラリや自社合成化合物群のスクリーニングを実施し、リード化合物を見出す研究を行います。さらに、細胞や菌などを用いたin vitro評価・目的とする疾患の病態を示す動物モデルへの投与試験などにより、開発化合物の薬理的性質を解明しています。また、臨床開発段階や市販後の薬剤についても、治療可能な新たな対象疾患を探索し、適応拡大の可能性を検討します。さらに信頼性確保に留意した申請用薬理試験の実施や、承認申請資料作成も重要な業務です。

私の大学での研究分野は蛋白質工学で、basic

FGFをcarrierとした制癌剤の可能性を探っていた時期があり、basic FGFをベースにした創傷治癒剤フィブラストスプレーを上市した科研製薬に関心をもったのが入社のかっかけでした。入社後、主業務としてbasic FGFの開発に携わることはありませんでしたが、その他の開発候補品のいずれも独創的なものばかりで、蛋白質工学というピンポイントの知識と経験しかなかった私は非常に驚き、医薬品開発に益々興味を抱きました。入社から12年が経ち、現在は研究だけでなく、部内の薬理試験のQuality Control (QC) チェックも担っています。再現性のある評価系を構築し、迅速かつ信頼性を確保したデータを得ることが結果的に企業の利益に繋がると考え、薬理試験の信頼性確保に必要な記録や報告書の作成に関してアドバイスをを行っています。

医薬品開発は非常に時間と労力のかかる事業であり、開発化合物のうち医薬品として上市する数は極めて少ないのが現状です。しかし、是非とも自分が担当した化合物が医薬品として上市されるよう、今後、大学で得た蛋白質工学の知識・経験を十分にいかして、効率よく業務を遂行していきたいと考えております。



## [新任教員の紹介]

### ○26年9月1日付け就任

- ・大学院自然科学研究科 (工) (機械システム系学科)  
独立行政法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所 研究員  
助教 永田 靖典

### ○26年10月1日付け就任

- ・大学院自然科学研究科 (工) (電気通信系学科)  
株式会社デンソー 基礎研究所 研究員  
助教 梅谷 和弘

### ○26年12月1日付け就任

- ・大学院自然科学研究科 (工) (情報系学科)  
日本学術振興会 特別研究員  
助教 佐藤 将也

- ・大学院自然科学研究科 (工) (機械システム系学科)  
近畿大学工学部機械工学科 准教授  
准教授 上森 武

### ○27年4月1日付け就任

- ・大学院自然科学研究科 (工) (情報系学科)  
奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科 准教授  
教授 門田 暁人

- ・大学院自然科学研究科 (工) (機械システム系学科)  
日本学術振興会 特別研究員  
助教 篠永 東吾

- ・大学院自然科学研究科 (工) (機械システム系学科)  
株式会社神戸製鋼所技術開発本部材料研究所 総合職  
助教 中田 隼矢

- ・大学院自然科学研究科 (工) (機械システム系学科)  
NTT物性科学基礎研究所 主任研究員  
教授 山崎 謙治

- ・大学院自然科学研究科 (工) (化学生命系学科)  
独立行政法人理化学研究所 客員研究員  
講師 高石 和人

- ・大学院自然科学研究科 (工) (機械システム系学科)  
愛媛大学大学院理工学研究科物質生命工学専攻機能材料工学コース 准教授  
教授 岡安 光博

## [昇任教員の紹介]

### ○26年11月1日付け昇任

- ・大学院自然科学研究科 (工) (電気通信系学科)  
大学院自然科学研究科 (電気通信系学科) 准教授  
教授 豊田 啓孝

## [定年、転出、退職教職員の紹介]

### ○27年3月17日付け退職

- ・大学院自然科学研究科 (工) (電気通信系学科)  
助教 渡邊 寛

### ○27年3月31日付け退職

- ・大学院自然科学研究科 (工) (機械システム系学科)  
中国職業能力開発大学校 校長  
教授 塚本 眞也

- ・大学院自然科学研究科 (工) (化学生命系学科)  
東京工科大学応用化学科 教授  
准教授 片桐 利真

- ・大学院自然科学研究科 (工) (機械システム系学科)  
岡山大学大学院自然科学研究科特別契約職員 教授  
教授 瀬沼 武秀

- ・大学院自然科学研究科 (工) (機械システム系学科)  
岡山商科大学経営学部経営学科 准教授  
助教 箕輪 弘嗣

### ○27年3月31日付け転出

- ・大学院自然科学研究科 (工) (機械システム系学科)  
徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 教授  
准教授 高岩 昌弘

- ・大学院自然科学研究科 (工) (機械システム系学科)  
香川大学工学部 講師  
助教 佐々木 大輔

### ○27年5月31日付け転出

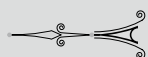
- ・大学院自然科学研究科 (工) (機械システム系学科)  
静岡大学総合科学技術研究科 助教  
助教 佐野 吉彦

## [叙勲者紹介]

(生存者叙勲 (26秋は一類該当無し))

### ○平成27年春の叙勲

- 瑞宝中綬章  
・加川 幸雄 名誉教授 (電気電子工学科)



## 受賞研究の紹介



### 平成26年度

職 名	所属学科等	氏 名	受 賞 名	受賞日
教 授	自然 (工)	阿部 匡伸	電子情報通信学会2013年LOIS功労賞	H26.5.15
大 学 院 生	自然 (工)	泉倉 大地	情報処理学会中国支部奨励賞	H26.5.16
大 学 院 生	自然 (工)	瀬藤 諒	情報処理学会中国支部奨励賞 平成25年度電気・情報関連学会 中国支部連合大会	H26.5.16
大 学 院 生	自然 (工)	松尾 雄二	情報処理学会中国支部奨励賞 平成25年度電気・情報関連学会 中国支部連合大会	H26.5.16
大 学 院 生	自然 (工)	塔 娜	平成25年度 (第64回) 電気・情報関連学会中国支部連合大会 奨励賞	H26.5.16
教 授	自然 (工)	有蘭 育生	公益社団法人日本経営工学会論文賞	H26.5.18
大 学 院 生	自然 (工)	池上 祐太	第九回情報危機管理コンテスト経済産業大臣賞	H26.5.24
大 学 院 生	自然 (工)	吉崎 広太	第九回情報危機管理コンテスト経済産業大臣賞	H26.5.24
大 学 院 生	自然 (工)	藤井 翔太	第九回情報危機管理コンテスト経済産業大臣賞	H26.5.24
大 学 院 生	自然 (工)	堀井 基史	第九回情報危機管理コンテスト経済産業大臣賞	H26.5.24
准 教 授	自然 (工)	岡本 康寛	型技術協会奨励賞	H26.6.17
教 授	自然 (工)	岡田 晃	型技術協会奨励賞	H26.6.17
准 教 授	自然 (工)	大橋 一仁	工作機械技術振興賞 (奨励賞)	H26.6.23
助 教	自然 (工)	大西 孝	工作機械技術振興賞 (奨励賞)	H26.6.23
教 授	自然 (工)	塚本 眞也	工作機械技術振興賞 (奨励賞)	H26.6.23
大 学 院 生	自然 (工)	藤山 泰弘	工作機械技術振興財団 工作機械技術振興賞 (奨励賞)	H26.6.23
大 学 院 生	自然 (工)	佐藤 直樹	工作機械技術振興財団 工作機械技術振興賞 (奨励賞)	H26.6.23
准 教 授	自然 (工)	竹元 嘉利	軽金属学会中国四国支部研究・開発奨励賞	H26.6.28
准 教 授	自然 (工)	内田 哲也	平成26年度内山勇三科学技術賞	H26.7.15
助 教	自然 (工)	石川 篤	平成26年度岡山工学振興会科学技術賞	H26.7.15
助 教	自然 (工)	大西 孝	砥粒加工学会奨励賞	H26.9.12
准 教 授	自然 (工)	山内 利宏	マルウェア対策研究人材育成ワークショップ2014 (MWS2014) 学生論文賞	H26.10.23
准 教 授	自然 (工)	山内 利宏	第17回コンピュータセキュリティシンポジウム2014 (CSS2014) 優秀論文賞	H26.10.23
准 教 授	自然 (工)	山内 利宏	第17回コンピュータセキュリティシンポジウム2014 (CSS2014) 学生論文賞	H26.10.23
准 教 授	自然 (工)	山内 利宏	情報処理学会中国支部三十周年記念論文貢献賞	H26.10.24
技 術 専 門 員	工学部	福本 博世	第10回切削加工ドリームコンテストアカデミック部門銀賞	H26.10.30
技 術 職 員	工学部	竹内 英人	第10回切削加工ドリームコンテストアカデミック部門銀賞	H26.10.30
教 授	自然 (工)	塚本 眞也	第10回切削加工ドリームコンテストアカデミック部門銀賞	H26.10.30
技 術 職 員	工学部	尾崎 亮太	第10回切削加工ドリームコンテストアカデミック部門銀賞	H26.10.30
准 教 授	自然 (工)	春木 直人	第10回切削加工ドリームコンテストアカデミック部門銀賞	H26.10.30
技 術 職 員	工学部	堀 格郎	第10回切削加工ドリームコンテストアカデミック部門銀賞	H26.10.30

大学院生	自然(工)	勝俣 将樹	第16回IEEE 広島支部学生シンポジウムHISS 優秀プレゼンテーション賞	H26.11.16
大学院生	自然(工)	田井 伸拓	第16回IEEE 広島支部学生シンポジウムHISS 優秀研究賞	H26.11.16
大学院生	自然(工)	川上 尚慶	第7回Webとデータベースに 関するフォーラム (WebDB Forum2014) 学生奨励賞	H26.11.20
技術専門職員	工学部	平田 裕子	国立大学法人岡山大学 永年勤続者表彰規程第2条第1号により表彰	H26.11.23
大学院生	自然(工)	齊藤 暎	第13回キャンパスベンチャーグランプリ中国 テクノロジー部門優秀賞 (ツネイシパートナーズ賞)	H27.1.20
大学院生	自然(工)	後藤 剛	第13回キャンパスベンチャーグランプリ中国 テクノロジー部門優秀賞 (ツネイシパートナーズ賞)	H27.1.20
大学院生	自然(工)	濱野友希豊	第13回キャンパスベンチャーグランプリ中国 テクノロジー部門優秀賞 (ツネイシパートナーズ賞)	H27.1.20
大学院生	自然(工)	留田 貴弘	第13回キャンパスベンチャーグランプリ中国 奨励賞	H27.1.20
大学院生	自然(工)	田中祐一朗	第13回キャンパスベンチャーグランプリ中国 奨励賞	H27.1.20
大学院生	自然(工)	橋本 将太	第13回キャンパスベンチャーグランプリ中国 奨励賞	H27.1.20
大学院生	自然(工)	松永 大知	第13回キャンパスベンチャーグランプリ中国 奨励賞	H27.1.20
学部生	工学部	新井 晃平	第7回データ工学と情報マネジメントに 関するフォーラム (DEIM2015) 学生プレゼンテーション賞	H27.3.4
大学院生	自然(工)	水谷健太郎	電子情報通信学会中国支部連合大会 奨励賞および優秀論文発表賞	H27.2.27
大学院生	自然(工)	前島 一仁	電気学会中国支部奨励賞	H27.2.1
大学院生	自然(工)	平田 大貴	電子情報通信学会中国支部平成26年度連合大会奨励賞	H27.2.27
教授	自然(工)	岡田 晃	精密工学会高城賞	H27.3.18
准教授	自然(工)	岡本 康寛	精密工学会高城賞	H27.3.18

## 平成27年度

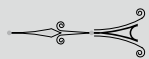
技術専門職員	工学部	中村 有里	公益財団法人日本セラミックス協会2015年年会男女共 同参画に関する川柳銀賞	H27.4.9
准教授	自然(工)	山内 利宏	平成26年度船井学術賞	H27.4.18
大学院生	工	西佐古祐太	情報処理学会中国支部奨励賞	H27.5.22

# 寄附者一覽

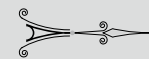
工学部同窓会会員の皆様から御寄附いただきました。御協力ありがとうございました。なお、匿名希望の方につきましては、御名前を載せておりません。

機械工学科 昭和 39	哲孝 雄隆 彦修 久一 明晃 駿郎 雄彦 一進 章己 明明 雄則 彦一 夫廣 男博 太保 風行 哉 義哲 夫 夫章 平二 豊治 隆昭 隆利 隆大 志一 明寛 宏之 孝治 紀希 司	48	常夫 満和 徳郎 美彦 雄寛 雄弘 幸洋 豊	成広 一茂 司一 一祐 肇 男一人 宏	57	治文 造夫 智隆 明治
40	義昭 昌隆 一	49	照隆 一芳 嘉廣 哲信 富二	健 隆聖 信啓	58	仲茂 由昌 裕幸
41	居井 林田 谷野 西藤 波岡 本辺 部本 水測	50	尾元 本下 野川	久健 正和	59	倉智 上崎 田達 田
42	新中 松沼 大高 大佐 難光 森渡 服山 清田 畑宮 伏江 佐二 藤藤 三岩 唯市 木芝 嶋杉 松湯 高渡 山 大藤 藤甲 坂宮 岡駒 伊伊 国池 植田 宮近 岡木 田大三 飛小 福	51	西濱 山丸 浅笹 萬 佐中 片太 河高 光	健政 豊 健 司 武登 光 良 正 卓	60	大越 檀津 福伊 菅上
43	崎見 原藤 宮森 原宅 藤岡 川梨 川崎 井川 (高上) 直悦	52	藤原 島岡 野田 本	出井 瀬代 木 旗 垣 井野 澤本	61	鎌酒 吉内 坂渡 生 諏橋 山嶋 高 高日 小大三 西山 北福
44	橋上 賀村 原藤 本園 城井 藤木 清田 木方 井藤 本村 代西 一子 田永	53	良本 和浩 孝 攻 夫	神田 大野 荒五 岡 稲平 前 滝橋	昭和	木井 川田 田辺 田訪 本内 田田 尾室 高坪 宅田 本島 寿
45	壽俊 利修 雄	54	崎野 森田 西岡 澤山	豊 健 司 武登 光 良 正 卓	45	史 貴 誠 眞 有 純 福 昭 秀 十 彰 雅 誠 良 眞 康
46	勝吉 篤純 政康 吉浩	55	岡中 福前 大松 滝上	健 司 武登 光 良 正 卓	46	朗 志 一 志 三 男 郎 夫 健 明 寛 和 一 雄 淳 進 治 祐 則 夫 厚
47	康泰 美	56	霜 山 山 竜	偉 則 康 弘	47	史 昭 栄 剛 司 古
48	勝吉 篤純 政康 吉浩	57	知能 開発 科学 専攻 文	大 院 平 成 4 中 江 村 大 限	48	孝 俊 一 英 好
49	勝吉 篤純 政康 吉浩	58	基礎 生産 システム 科学 専攻 一	通 信 ネットワーク 工 学 科	49	葉 岡 池 玉 井
50	勝吉 篤純 政康 吉浩	59	機 械 システム 工 学 専 攻 士	大 院 平 成 7 酒 大	50	稲 重 小 大 藤 泉
51	勝吉 篤純 政康 吉浩	60	井 上 琢	大 院 平 成 9 大	51	尾 為 赤 阿
52	勝吉 篤純 政康 吉浩	61	玉成 馬原 安大 加北 秋網 伊板 阿岡 角中 土服 横原 三福 梶寺 三寺 前大 木伊 波多	情 報 工 学 科	52	中 保 木 部
53	勝吉 篤純 政康 吉浩	62	木 広 場 田 東 森 藤 村 山 島 賀 谷 部 田 南 嶋 師 部 田 宅 留 原 田 島 尾 田 阪 村 藤 野	工 業 化 学 科	53	政 伸 佑 慎
54	勝吉 篤純 政康 吉浩	63	亮 啓 正 弘 珪 士 宣 康 眞 修 義 正 吉 拓 康 泰 康 健 雅 和	昭 和 39	54	憲 成 輔 司
55	勝吉 篤純 政康 吉浩	64	吉 徹 丞 憲 行 勝 一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 40	55	正 攻 信
56	勝吉 篤純 政康 吉浩	65	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 41	56	幸 子 平
57	勝吉 篤純 政康 吉浩	66	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 42	57	浩 聖 祥
58	勝吉 篤純 政康 吉浩	67	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 43	58	由 紀 貴
59	勝吉 篤純 政康 吉浩	68	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 44	59	美 清
60	勝吉 篤純 政康 吉浩	69	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 45	60	香 田 林 部 岡 野
61	勝吉 篤純 政康 吉浩	70	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 46	61	さ や 直 洋 圭 伸 友
62	勝吉 篤純 政康 吉浩	71	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 47	62	谷 崎 田 田 浦 辻 本
63	勝吉 篤純 政康 吉浩	72	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 48	63	健 茂 博 陸 洋 浩 卓
64	勝吉 篤純 政康 吉浩	73	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 49	64	一 次 司 雄 一 夫 爾
65	勝吉 篤純 政康 吉浩	74	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 50	65	
66	勝吉 篤純 政康 吉浩	75	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 51	66	
67	勝吉 篤純 政康 吉浩	76	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 52	67	
68	勝吉 篤純 政康 吉浩	77	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 53	68	
69	勝吉 篤純 政康 吉浩	78	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 54	69	
70	勝吉 篤純 政康 吉浩	79	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 55	70	
71	勝吉 篤純 政康 吉浩	80	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 56	71	
72	勝吉 篤純 政康 吉浩	81	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 57	72	
73	勝吉 篤純 政康 吉浩	82	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 58	73	
74	勝吉 篤純 政康 吉浩	83	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 59	74	
75	勝吉 篤純 政康 吉浩	84	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 60	75	
76	勝吉 篤純 政康 吉浩	85	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 61	76	
77	勝吉 篤純 政康 吉浩	86	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 62	77	
78	勝吉 篤純 政康 吉浩	87	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 63	78	
79	勝吉 篤純 政康 吉浩	88	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 64	79	
80	勝吉 篤純 政康 吉浩	89	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 65	80	
81	勝吉 篤純 政康 吉浩	90	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 66	81	
82	勝吉 篤純 政康 吉浩	91	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 67	82	
83	勝吉 篤純 政康 吉浩	92	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 68	83	
84	勝吉 篤純 政康 吉浩	93	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 69	84	
85	勝吉 篤純 政康 吉浩	94	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 70	85	
86	勝吉 篤純 政康 吉浩	95	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 71	86	
87	勝吉 篤純 政康 吉浩	96	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 72	87	
88	勝吉 篤純 政康 吉浩	97	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 73	88	
89	勝吉 篤純 政康 吉浩	98	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 74	89	
90	勝吉 篤純 政康 吉浩	99	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 75	90	
91	勝吉 篤純 政康 吉浩	100	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 76	91	
92	勝吉 篤純 政康 吉浩	101	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 77	92	
93	勝吉 篤純 政康 吉浩	102	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 78	93	
94	勝吉 篤純 政康 吉浩	103	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 79	94	
95	勝吉 篤純 政康 吉浩	104	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 80	95	
96	勝吉 篤純 政康 吉浩	105	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 81	96	
97	勝吉 篤純 政康 吉浩	106	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 82	97	
98	勝吉 篤純 政康 吉浩	107	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 83	98	
99	勝吉 篤純 政康 吉浩	108	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 84	99	
100	勝吉 篤純 政康 吉浩	109	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 85	100	
101	勝吉 篤純 政康 吉浩	110	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 86	101	
102	勝吉 篤純 政康 吉浩	111	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 87	102	
103	勝吉 篤純 政康 吉浩	112	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 88	103	
104	勝吉 篤純 政康 吉浩	113	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 89	104	
105	勝吉 篤純 政康 吉浩	114	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 90	105	
106	勝吉 篤純 政康 吉浩	115	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 91	106	
107	勝吉 篤純 政康 吉浩	116	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 92	107	
108	勝吉 篤純 政康 吉浩	117	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 93	108	
109	勝吉 篤純 政康 吉浩	118	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 94	109	
110	勝吉 篤純 政康 吉浩	119	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 95	110	
111	勝吉 篤純 政康 吉浩	120	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 96	111	
112	勝吉 篤純 政康 吉浩	121	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 97	112	
113	勝吉 篤純 政康 吉浩	122	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 98	113	
114	勝吉 篤純 政康 吉浩	123	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 99	114	
115	勝吉 篤純 政康 吉浩	124	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 100	115	
116	勝吉 篤純 政康 吉浩	125	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 101	116	
117	勝吉 篤純 政康 吉浩	126	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 102	117	
118	勝吉 篤純 政康 吉浩	127	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 103	118	
119	勝吉 篤純 政康 吉浩	128	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 104	119	
120	勝吉 篤純 政康 吉浩	129	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 105	120	
121	勝吉 篤純 政康 吉浩	130	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 106	121	
122	勝吉 篤純 政康 吉浩	131	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 107	122	
123	勝吉 篤純 政康 吉浩	132	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 108	123	
124	勝吉 篤純 政康 吉浩	133	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 109	124	
125	勝吉 篤純 政康 吉浩	134	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 110	125	
126	勝吉 篤純 政康 吉浩	135	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 111	126	
127	勝吉 篤純 政康 吉浩	136	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 112	127	
128	勝吉 篤純 政康 吉浩	137	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 113	128	
129	勝吉 篤純 政康 吉浩	138	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 114	129	
130	勝吉 篤純 政康 吉浩	139	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 115	130	
131	勝吉 篤純 政康 吉浩	140	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 116	131	
132	勝吉 篤純 政康 吉浩	141	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 117	132	
133	勝吉 篤純 政康 吉浩	142	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 118	133	
134	勝吉 篤純 政康 吉浩	143	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 119	134	
135	勝吉 篤純 政康 吉浩	144	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 120	135	
136	勝吉 篤純 政康 吉浩	145	一 守 進 武 淳 夫 一 実 平 夫 務 志 雄 司 通 雄 夫 翌 誠 章 雄 一 彦 整 彦	昭 和 121	136	
137	勝吉 篤純					





## 同窓会会計報告 (平成26年度)



### 一般会計

### 収支計算書

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異	備考
<b>I. 収入の部</b>				
1. 入会金収入 会費収入	2,983,760	3,299,540	△315,780	330名 { @10,000×326 @9,920×1 @9,880×1 @9,870×2
2. 寄附金収入 寄附金収入	783,000	784,343	△1,343	824口
3. 雑収入 受取利息	100,000	141,303	△41,303	普通、郵貯、有価証券
同窓会名簿代	0	5,000	△5,000	1冊
雑収入	0	30,783	△30,783	
当期収入合計(A)	3,866,760	4,260,969	△394,209	
前期繰越収支差額	6,485,268	6,485,268	0	
収入合計(B)	10,352,028	10,746,237	△394,209	
<b>II. 支出の部</b>				
1. 事業費	3,158,000	2,920,312	237,688	
通信運搬費	1,009,000	963,607	45,393	会報郵送料外
会議費	200,000	82,782	117,218	学科連絡委員会
旅費交通費	100,000	90,960	9,040	関東支部同窓会
印刷製本費	1,319,000	1,257,572	61,428	会報印刷代外
消耗品費	10,000	10,878	△878	名札外
助成金支出	450,000	453,433	△3,433	関東支部同窓会外
同窓会活性化経費	60,000	60,000	0	ホームページ作業料
雑費	10,000	1,080	8,920	振込手数料
2. 学科事業費	1,701,000	1,008,000	693,000	
学科配分会費	1,701,000	1,008,000	693,000	336名 @3,000-
3. 管理費	360,000	360,000	0	
業務委託費	360,000	360,000	0	(公財) 岡山工学振興会
当期支出合計(C)	5,219,000	4,288,312	930,688	
当期収支差額(A)-(C)	△1,352,240	△27,343	△1,324,897	
次期繰越収支差額(B)-(C)	5,133,028	6,457,925	△1,324,897	

### 基金特別会計

### 収支計算書

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

(単位：円)

科目	決算額	備考
<b>I. 収入の部</b>		
1. 雑収入 受取利息	132,944	有価証券
当期収入合計(A)	132,944	
前期繰越収支差額	2,732,861	
収入合計(B)	2,865,805	
当期支出合計(C)	0	
当期収支差額(A)-(C)	132,944	
次期繰越収支差額(B)-(C)	2,865,805	

工学部同窓会ホームページ <http://www.eng.okayama-u.ac.jp/alumni/index.html>

工学部同窓会ではホームページを通じてみなさまにいろいろな情報をおとどけします。ホームページを充実させるためにみなさまからの情報を募集しています。是非ご協力下さい。

例えばこんな情報を募集しています。

- ・同期会、研究室同窓会、など行事のお知らせ
- ・みなさまの近況
- ・同窓生の方がお持ちのホームページ（リンクさせていただきます）
- ・同窓生による寄稿（エッセイ、旅行記、写真などなんでも構いません）

※なお、情報を提供下さった方には、右写真にあります、「岡山大学グッズ」の中からいずれかを進呈します。

ホームページへのご寄稿、ご要望などはofst@cc.okayama-u.ac.jp宛にお願いします。



## 同窓会事務局より

### 同窓会報への寄稿などのお願い

会員の方々の寄稿、意見等をお寄せくださいますようお願いいたします。  
 ●職場報告：600～1200字程度 ●会員グループ報告：600～1200字程度 ●最近の研究から：1200字まで（図・表を含む）  
 ●会員短信：800字以内（近況、随想、会員や恩師への祝辞、思い出等） ●通信：400字以内

いずれも写真（顔写真あるいは関連写真）を合わせてご提供ください。

なお、いずれの寄稿につきましても、編集幹事一同の判断により、紙面の都合上内容を損なわない範囲で一部を変更、削除させていただくこと、また極端に内容が不都合であるものについては掲載をしないこと、などをさせていただくことがありますので御了承をお願いいたします。

### 支部活動の助成について

次のとおり支部活動を助成します。幹事、あるいは岡山工学振興会内・岡山大学工学部同窓会(086-255-8311)へ御連絡ください。

- (1) 100人程度を超えるような支部が総会、懇親会等の活動を行う場合に助成する。
- (2) 通信連絡に必要な経費として、小野高速印刷(株)を利用した場合等の実費額と180円/人・回のいずれか安価な額を助成する。
- (3) 懇親会等の会合に要する経費として50,000円/会を助成する。

### 寄附のお願い

工学部同窓会は、皆様のお力添えに支えられ今日まで活動を行ってまいりました。今後も活発な同窓会活動を継続するためには財務基盤の強化が急務であるため、昨年度に引き続き会員の皆様に寄附のお願いをすることになりました。寄附は一口1,000円からとさせていただきますが、ご都合に応じ何口でも結構でございます。なお、寄附をお寄せ頂いた会員のお名前、卒業学科（専攻）、卒業年度を会報に掲載させていただきます。

会員の皆様におかれましては、寄附の趣旨にご理解を頂き、引き続きご協力を賜りたくお願い申し上げます。

ご寄附は下記宛でお願いいたします

郵便振替01270-4-5233 岡山大学工学部同窓会

\*通信欄にはご住所、お名前、電話番号、卒業学科（専攻）、卒業年度、会報への氏名掲載の可否をご記入下さい。

### 編 集 後 記

アベノミクスの効果があるいは少子化による労働力人口の減少か理由は分かりませ

んが、企業からの求人状況は今年も良さそうです。しかし、問題も生じています。経団連が4月以降だった選考活動を8月以降に変更しました。昨年まで5月連休明けくらいには内々定していたのが、今年就職活動は遅々とした状況です。従来通りのスケジュールで来る企業もあり、結局、学生はこれまで以上に就職活動に時間を費やして、その分、研究に集中できていません。さて、会報第27号をお届けします。お忙しい中ご寄稿いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。今号より学科近況は全学科分の報告となります。工学部は今年創立55周年、また、私の所属するシステム系も20年目となり、多くの同窓生が各方面・分野でご活躍されていると想像します。個人的には10年以上昔の研究を再開するような共同研究があり、退官された先生に久しぶりに研究室に来て頂いて指導を仰ぐことができました。論文では分からない実験のノウハウなど直接聞いて知ることの多さに驚いています。全学では平成28年度より授業が60分×2、クォーター制の導入と大改革が行われます。工学部同窓会や支部の活動もより充実したものとなりますよう、皆様の一層のご支援を賜ればありがたく存じます。

学内代表幹事 永井伊作（機械システム系学科）